

化学工業分析フォーラム 2022

～半導体や樹脂材料の顧客分析事例と材料分析における最新ソリューションのご紹介～

近年需要が高まっている半導体分析や樹脂の分析について講師をお招きしご講演いただくオンラインセミナーを実施します。

半導体については、株式会社ISTL代表の磯部晶先生に半導体分野の技術動向を解説いただき、株式会社東レリサーチセンターの藤崎一幸様から、固体を直接分析できるソリッドネブライザーを用いた半導体シリコンウエハーの分析について講演いただきます。このほか、高次処理水・純水や非極性溶媒中のイオン分析についてもご紹介いたします。また、幅広い分野で利用される樹脂に関して、DIC株式会社の渡辺様より当社の高分解能質量分析を用いた分析事例を共有いただき、当社からも不純物分析や品質管理に有用な荷電化粒子検出器のユニークな性能と化学工業分野における活用事例をお話しします。

このように本フォーラムでは化学工業分析に関するさまざまな最新技術をご紹介する予定です。皆さまのご参加をスタッフ一同、心よりお待ちしております。

開催概要

- 開催方式： オンラインにて実施
日時： 2022年3月 3日 (木) 13:30 ※ログイン開始 13:15
申込期限： 2022年2月24日 (木) 17:00 まで
参加費用： 無料
主催： サーマフィッシャーサイエンティフィック株式会社
クロマトグラフィー&マススペクトロメトリー事業本部

プログラムは裏面をご覧ください。

※同業他社様からの申し込みについてはお断りする場合がございますので、あらかじめご了承ください。

※下のリンク先から申し込みをお願いいたします。2022年3月1日 (火) にセミナーのURLをご登録いただいたメールアドレスへお送りする予定です。



申し込みフォーム thermofisher.com/jp-industrial-seminar-2022

プログラム		
13:15	ログイン開始	
13:30~13:35	オープニング	
13:35~14:35	招待講演 半導体デバイスの進化と化学分析の位置づけ 株式会社ISTL 代表 磯部 晶 様	半導体デバイスにはメモリ、ロジック、センサー、パワーなど様々な種類が存在し、それぞれデバイス構造や動作原理は異なっています。これまで半導体デバイスの進化に大きな役割を果たしてきた微細化が限界に近づきつつあり、それを補うためにデバイス構造やパッケージ技術の複雑化が進んでいます。本講演ではそれぞれのデバイス技術動向と、それに伴う金属不純物等によるデバイス特性や信頼性への影響についてお話しします。
14:35~15:00	アプリケーション紹介 純水、溶媒中のイオン分析 サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社 イオンクロマトグラフィー事業部	半導体製造プロセスや完成したデバイスにとって大きな懸念となるのがイオン汚染です。そのため、高次処理水、純水のイオン分析やPEG、PEGMAなどの非極性溶媒中のイオン分析の需要は大きく、イオンクロマトグラフィーはそれらを迅速に測定できる効率的な分析手法です。本演題では、イオン交換原理を利用した濃縮やマトリックス除去導入による、安定した高感度分析手法を紹介いたします。
15:00~15:10	休憩	
15:10~16:00	ソリッドネブライザーが切り開く固体元素分析手法の最先端技術	
	招待講演 Jupiter-ICP-MSによる無機元素分析の最新事例紹介 株式会社東レリサーチセンター 無機分析化学研究部 無機分析化学第2研究室 藤崎 一幸 様	レーザーアブレーション装置の著しい進歩により、これまで困難であった分析が可能となり、見えなかった情報を取得できるようになりつつある。本講演では、半導体材料の深さ方向分析や最近注目されているホウ素中性子捕捉療法用ホウ素薬剤の分布を最新分析事例を交えてJupiter-ICP-MSの可能性を紹介する。
	アプリケーション紹介 Junoソリッドネブライザーを使って、溶かして測るICP-MSから溶かさずそのまま測るICP-MSに変えませんか？ サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社 エレメンタル事業部	固体サンプルを溶解せずに多角的に組成成分ができることを、産業・学術界で高く評価されているJupiter ソリッドネブライザーをより幅広く分析者の皆さまに活用いただけるよう、主要機能を損なうことなく徹底したコストダウンにより誕生したJunoソリッドネブライザーの性能をご紹介します。
16:00~16:20	招待講演 DICにおける各種樹脂の分析手法と Exactive Plus 活用事例の紹介 DIC株式会社 千葉工場 分析センター 千葉グループ 渡辺 岳 様	当社では熱硬化から熱可塑までの樹脂系および添加剤等の広範な製品を有しており、その開発支援のため種々の前処理や機器による総合的な分析/解析が必要となっている。本発表では、その中でLC-OrbitrapMSIによる添加剤分析への活用事例と、直接導入MSIによる樹脂分析での検討を紹介する。
16:20~16:50	アプリケーション紹介 化学工業分野のHPLC分析に有用な荷電化粒子検出器の原理・特長とアプリケーション活用例について サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社 クロマトグラフィー&マスマススペクトロメトリー事業部	荷電化粒子検出器は網羅的に化合物を検出し、その構造に関わらず応答性が一定に得られるといった検出特長があります。これにより、これまで検出できなかった成分を検出し、さらに含有量を把握するといったことが可能となり、化学工業分野のHPLC分析にも有用です。本演題では荷電化粒子検出器の検出原理から化学工業分野での活用例までをご紹介します。
16:50~17:00	クロージング	

※セミナーの録画・録音、画面のスクリーンショットはお控えください。また、それらの二次利用もご遠慮ください。

※プログラムは予告なく変更となる場合があります。

※各演題の終了後にQ&Aの時間を設けます。

※当日の進行状況により、各演題の開始時間が前後する場合があります。

申し込みフォーム thermofisher.com/jp-industrial-seminar-2022

研究用のみ使用できます。診断用には使用いただけません。

© 2021 Thermo Fisher Scientific Inc. All rights reserved.

All trademarks are the property of Thermo Fisher Scientific and its subsidiaries unless otherwise specified.

実際の価格は、弊社販売代理店までお問い合わせください。

価格、製品の仕様、外観、記載内容は予告なしに変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。

標準販売条件はこちらをご覧ください。 thermofisher.com/jp-tc ALL126-A22010B

サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社

分析機器に関するお問い合わせはこちら

TEL : 0120-753-670 FAX : 0120-753-671

Analyze.jp@thermofisher.com

facebook.com/ThermoFisherJapan

@ThermoFisherJP

thermofisher.com